

基礎編①

豚熱の発生状況について

- 国内の発生状況（農場、野生イノシシ）
- 県内の発生状況

豚熱とは

(1) 原因：豚熱ウイルス (classical swine fever virus)

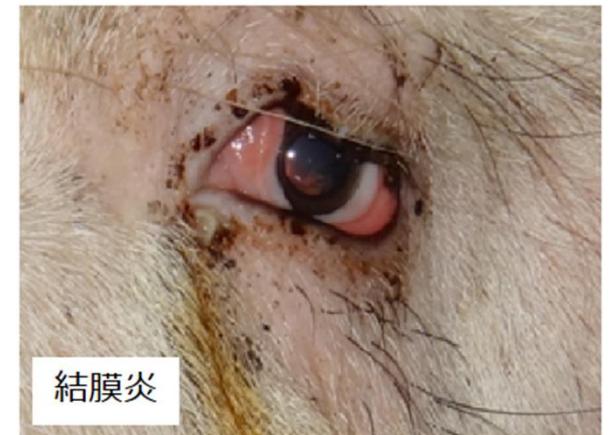
(2) 宿主：豚、いのしし ※人には感染しない

(3) 分布：欧州、アジア、アフリカ、中南米の一部の国々

※ 我が国では平成30年9月に26年ぶりに発生。飼養豚では21都県、野生イノシシでは36都府県で発生（令和6年6月1日時点）。

(4) 症状：急性、亜急性、慢性型等多様な病態。白血球減少。

※ 有効なワクチンが存在

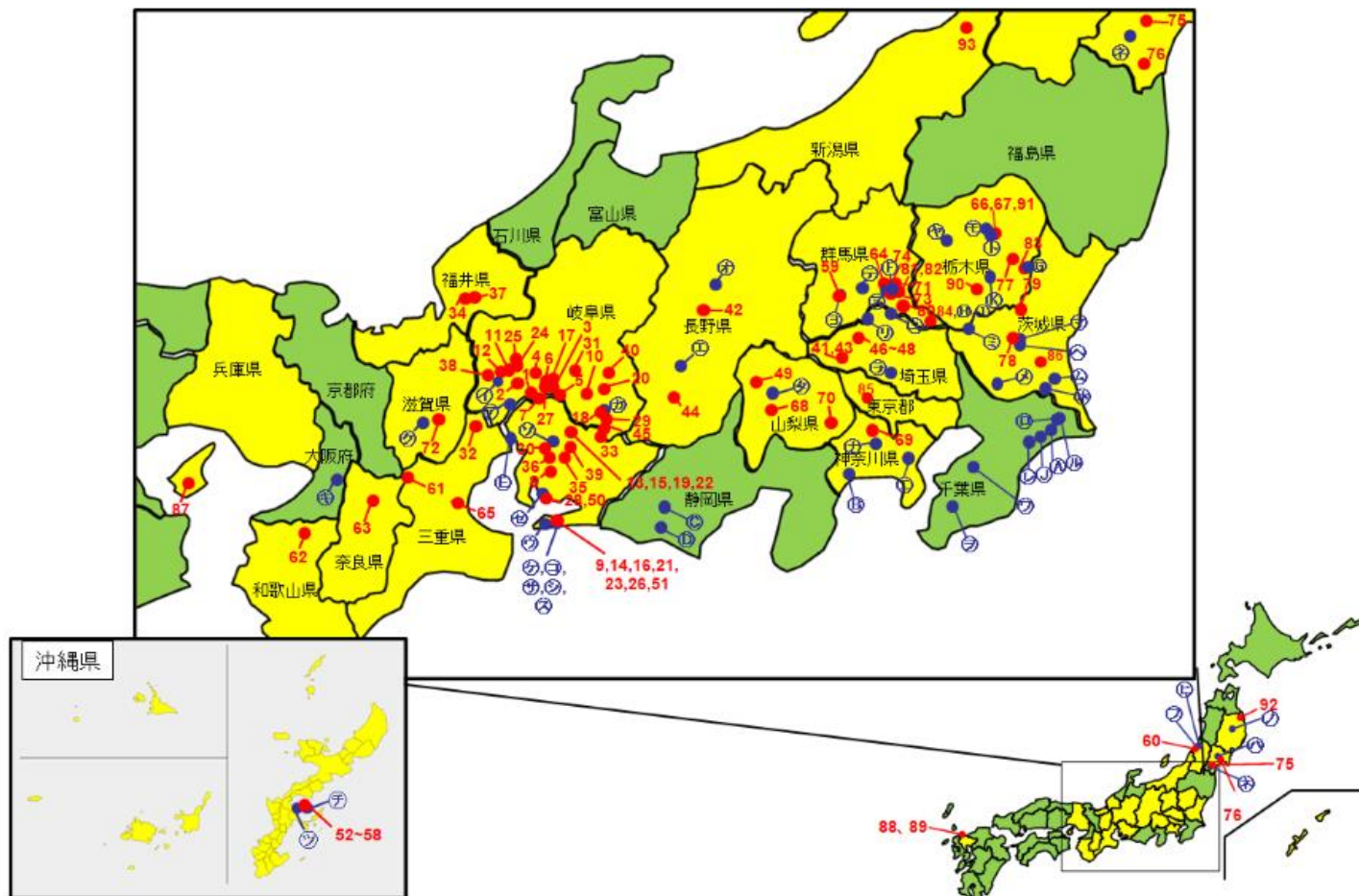


日本の発生状況

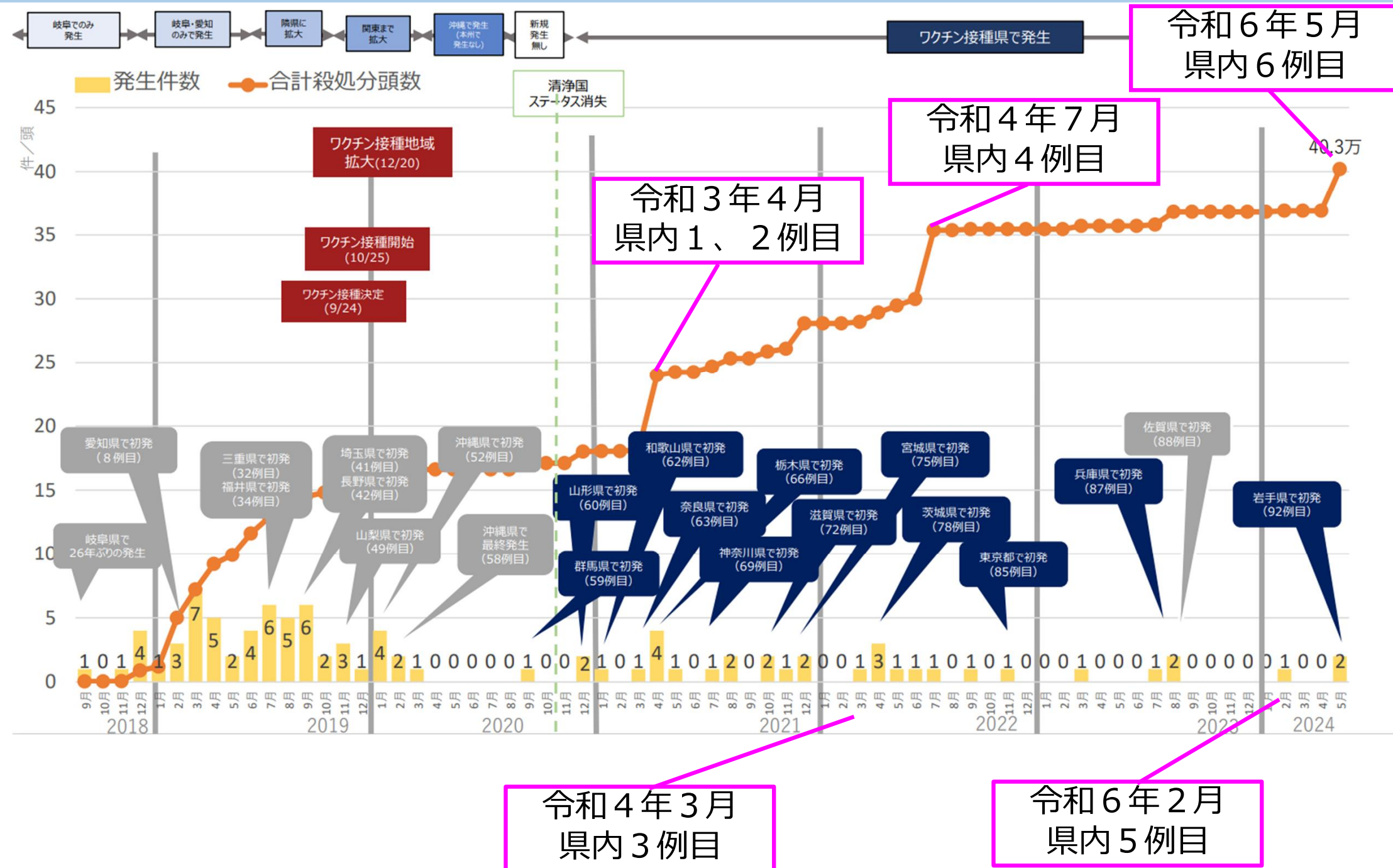
○2018年9月9日の岐阜県での発生以来、22都県で計93事例発生し、これまでに約40.3万頭を殺処分。

○2019年9月24日にワクチン接種を決定、10月15日に防疫指針を改訂、10月25日からワクチン接種開始。

○2020年9月3日にWOAH（国際獣疫事務局）が認定する豚熱の清浄国ステータスを消失。



国内の発生状況と殺処分頭数の推移



野生イノシシの発生とワクチン接種地域

飼養豚陽性発生県：赤色

【21都県】（飼養頭数 3,195,030頭(全国の35.7%)）

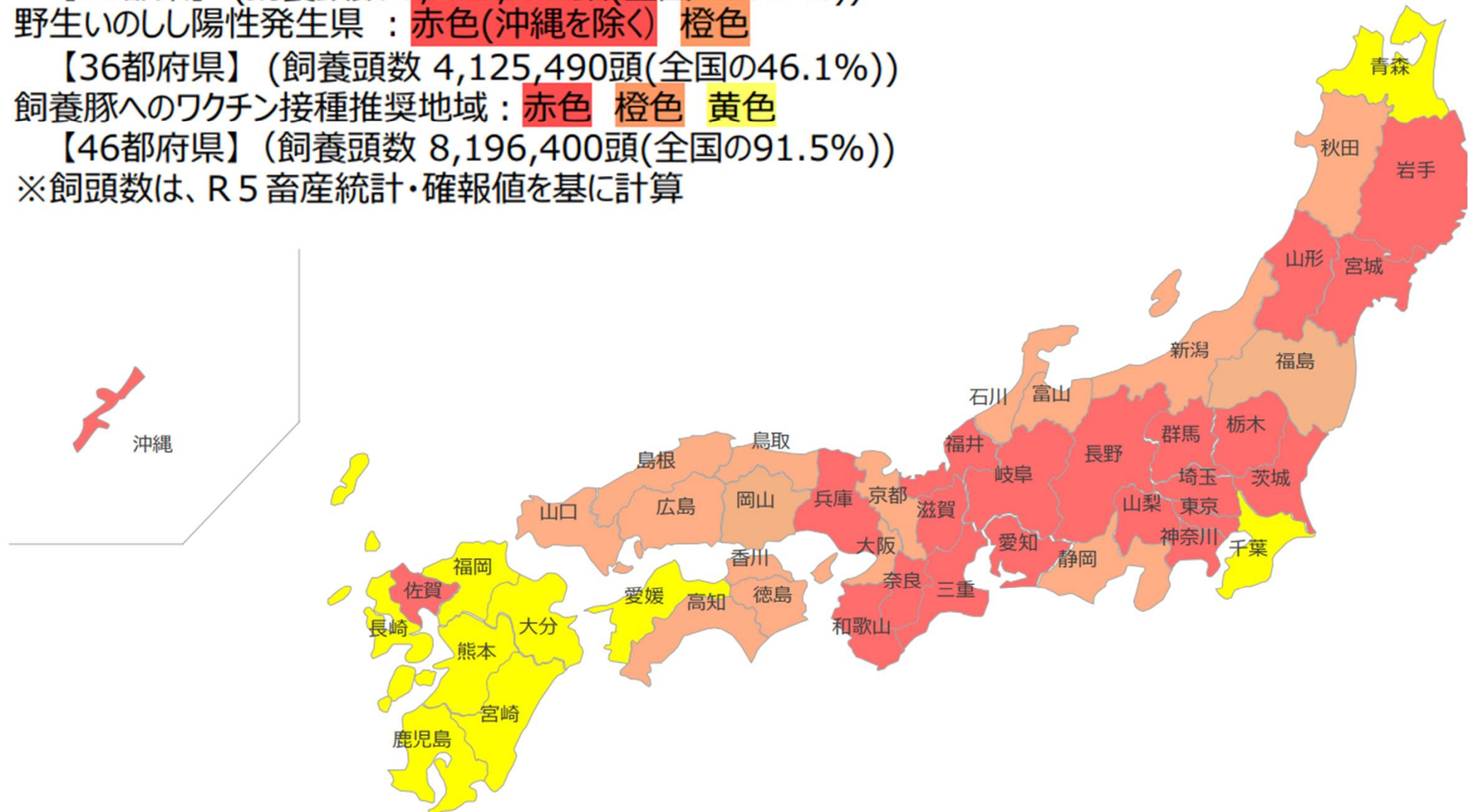
野生いのしし陽性発生県：赤色(沖縄を除く) 橙色

【36都府県】（飼養頭数 4,125,490頭(全国の46.1%)）

飼養豚へのワクチン接種推奨地域：赤色 橙色 黄色

【46都府県】（飼養頭数 8,196,400頭(全国の91.5%)）

※飼頭数は、R5 畜産統計・確報値を基に計算

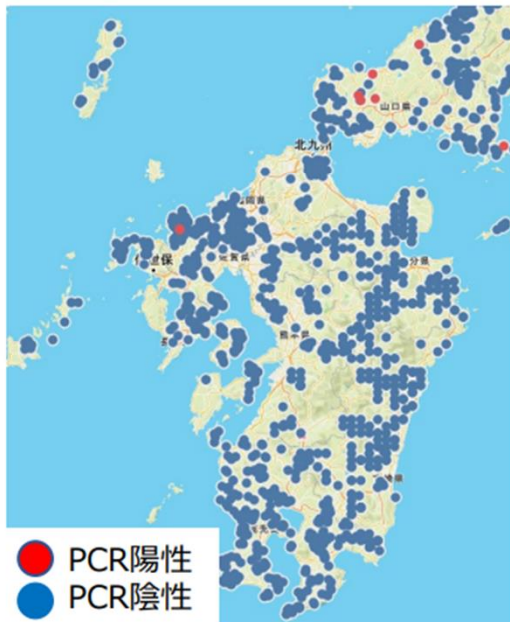


九州地域の取組

- ・ 佐賀県でも豚熱が確認されたことを受け、野生イノシシ検査の強化や経口ワクチン散布に向けて取組を実施

九州地方のサーベイランスの強化・徹底

- ・ 各種対策を有効に実施するため、浸潤状況を把握することが重要
- ・ 九州各県の野生いのししにおける豚熱の感染状況について、サーベイランスを強化・徹底し、感染の有無を把握していく必要



県名	検査頭数
福岡県	274
佐賀県	419
長崎県	282
熊本県	323
大分県	369
宮崎県	359
鹿児島県	311
合計	2,338

令和5年8月29日から令和6年5月末までの検査状況と検査頭数

農場の対策

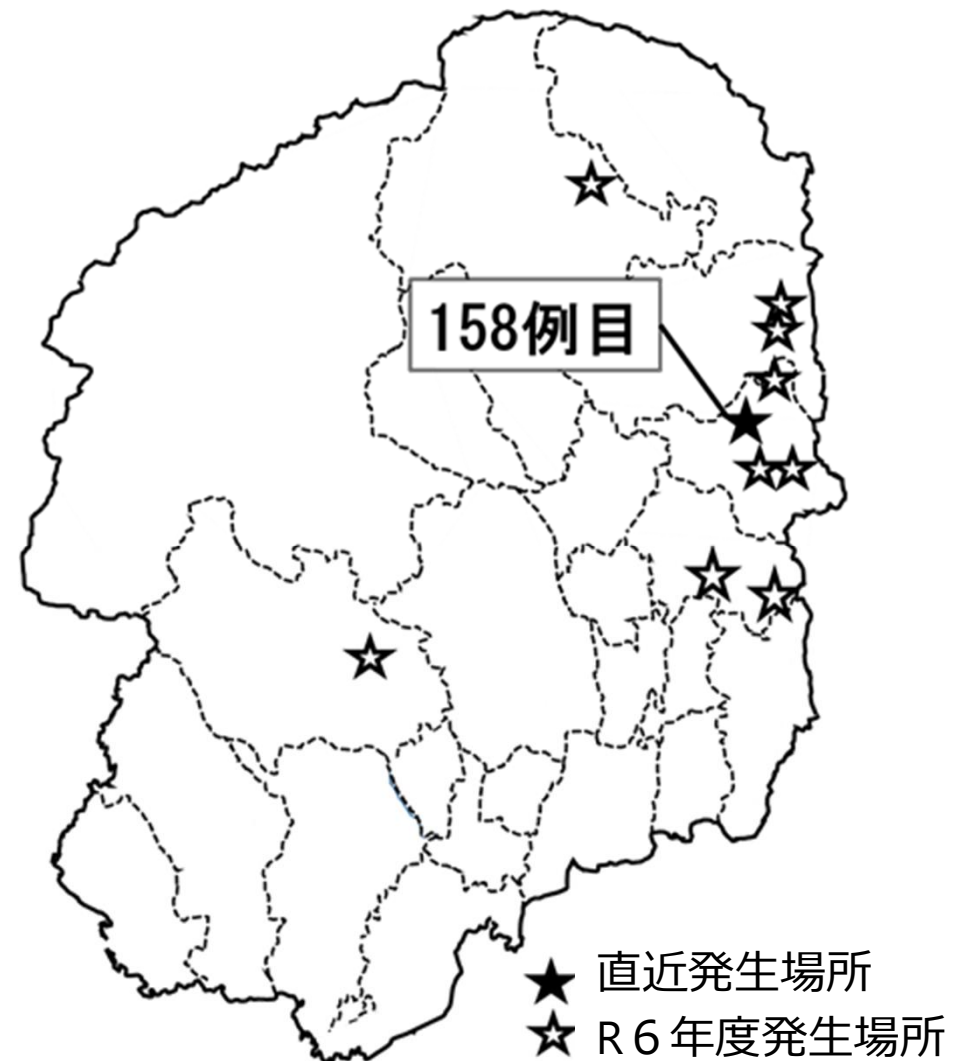
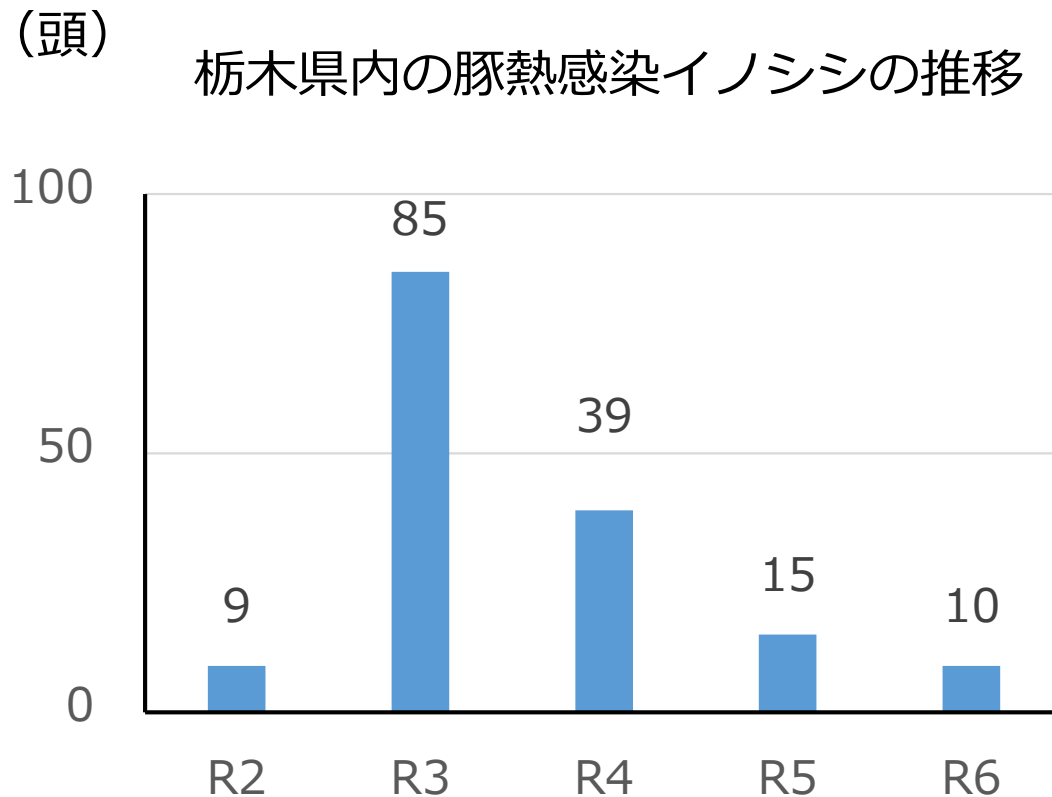
- ・ 飼養衛生管理の再点検と徹底
- ・ 適時適切なワクチン接種の実施
- ・ 早期通報の徹底

佐賀県における経口ワクチンの散布

- ・ 今般の確認を受け、佐賀県を経口ワクチン散布推奨地域に指定
- ・ 特に、感染確認地域周辺では、迅速かつ重点的に経口ワクチン散布を実施
- ・ 経口ワクチンについては、60万個以上を確保済（5月末時点）
- ・ 猟友会等と連携して引き続き捕獲の強化を実施

栃木県内における野生イノシシ陽性状況

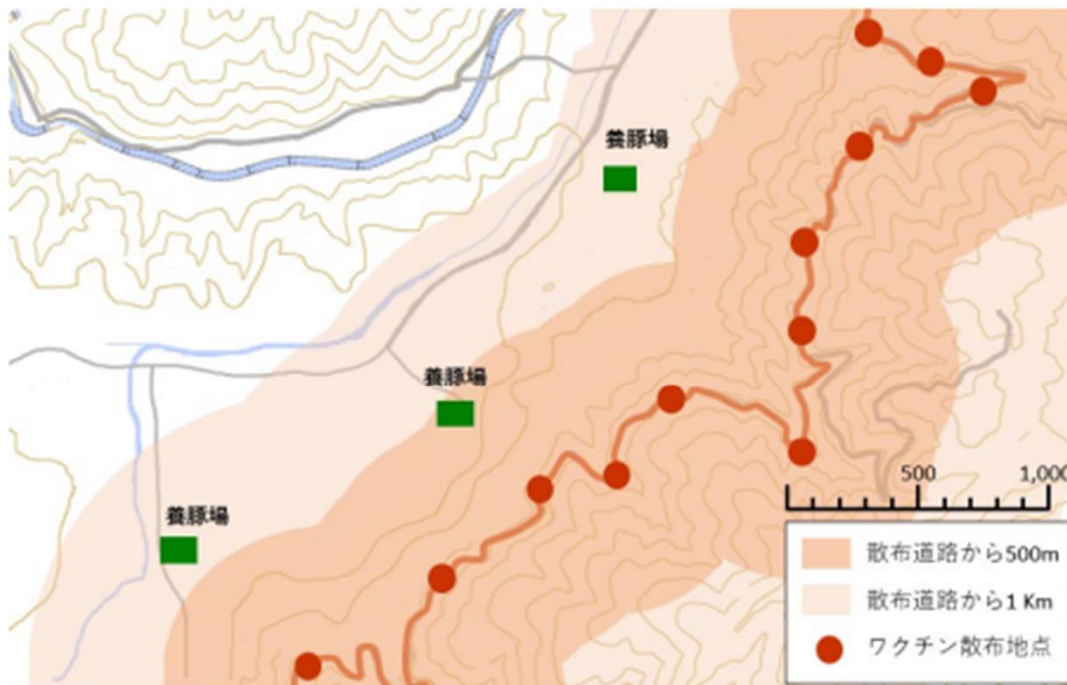
- 令和3年をピークに、豚熱陽性イノシシは減少傾向でしたが、令和6年4月以降に10例確認されています。



経口ワクチン散布の効果と方向性

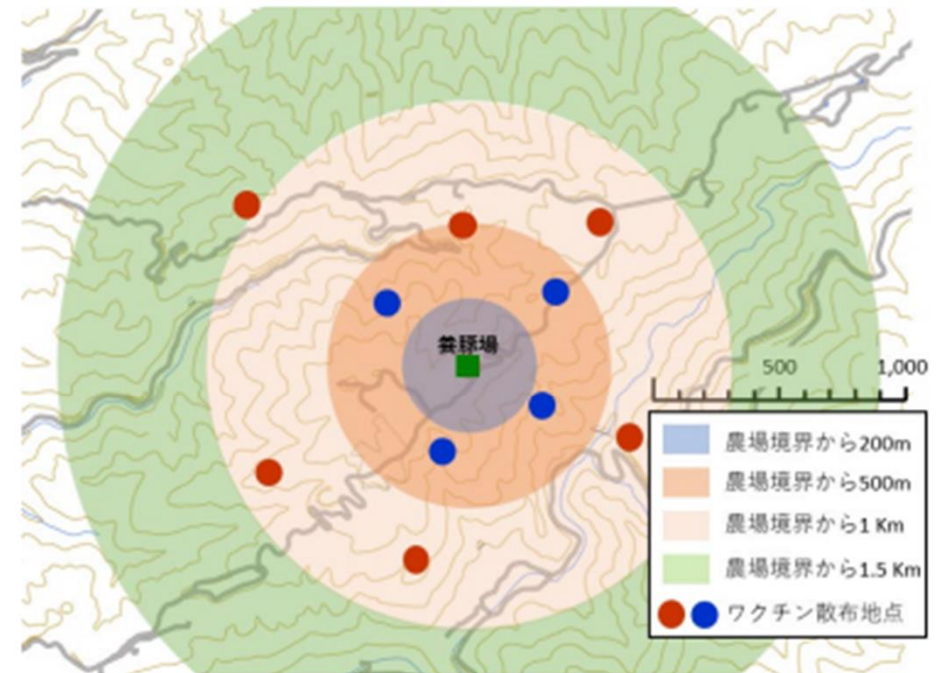
- 平成31年3月以降、現在までに38都府県が経口ワクチンを散布（令和6年6月6日時点）。
- 散布により、野生イノシシを介した感染拡大を抑え、環境中のウイルス低減を図り、① 農場への感染リスクの低減と、② まん延スピードを弱め、未確認地域への侵入を防止を目指す。

A:エリア型散布



- 道路や河川等の障壁でイノシシの動線が見えやすい場合
- 農場が多く集中しているエリアがある場合
- 豚熱感染確認直後で緊急的に感染拡大を抑制したい場合

B:集中型散布



- 農場が分散しており、ピンポイントの対策が必要な場合
- 農場周辺の野生動物対策が適切に実施されている場合、農場近く（●）でも、散布が可能と考えられる。

県内の発生事例について

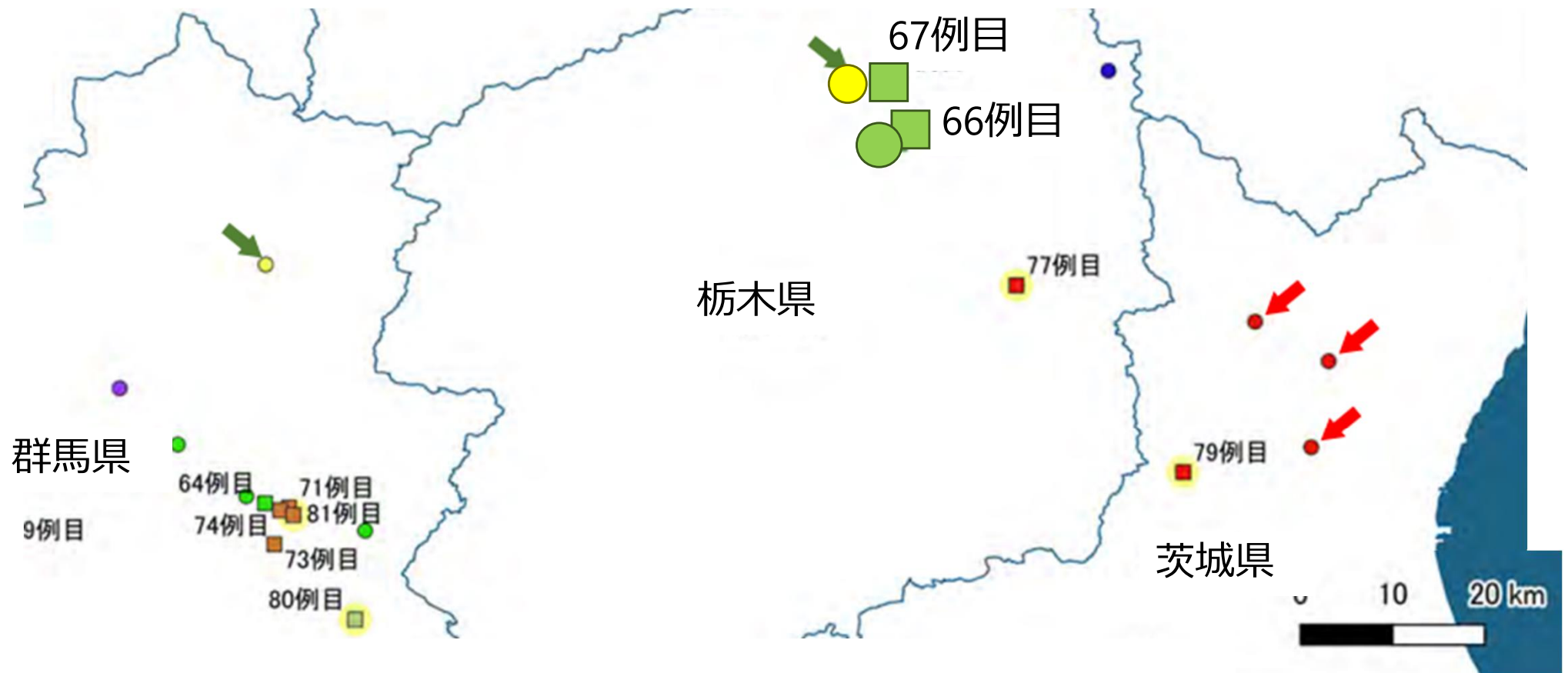
- ・県内では、豚熱ワクチン接種をしているにも関わらず発生が続いている。殺処分率は全国の4分の1を占める。

県内	国内	発生場所	発生日	飼養頭数	防疫措置 開始日	完了日	防疫措置に 要した日数
1	66	那須塩原市	2021/4/17	約17,000頭	2021/4/17	2021/5/17	31日
2	67	那須塩原市	2021/4/17	約22,000頭	2021/4/17	2021/5/17	31日
3	77	那珂川町	2022/3/25	約 1,200頭	2022/3/25	2022/3/31	7日
4	83	那須烏山市	2022/7/23	約56,000頭	2022/7/23	2022/9/30	69日
5	90	栃木市	2024/2/16	約 1,100頭	2024/2/16	2024/2/29	14日
6	91	那須塩原市	2024/5/26	約16,000頭	2024/5/26	2024/6/25	31日

ウイルスの遺伝子解析（県内 1、 2 例目）

県内 1、 2 例目（国内 66、 67 例目）

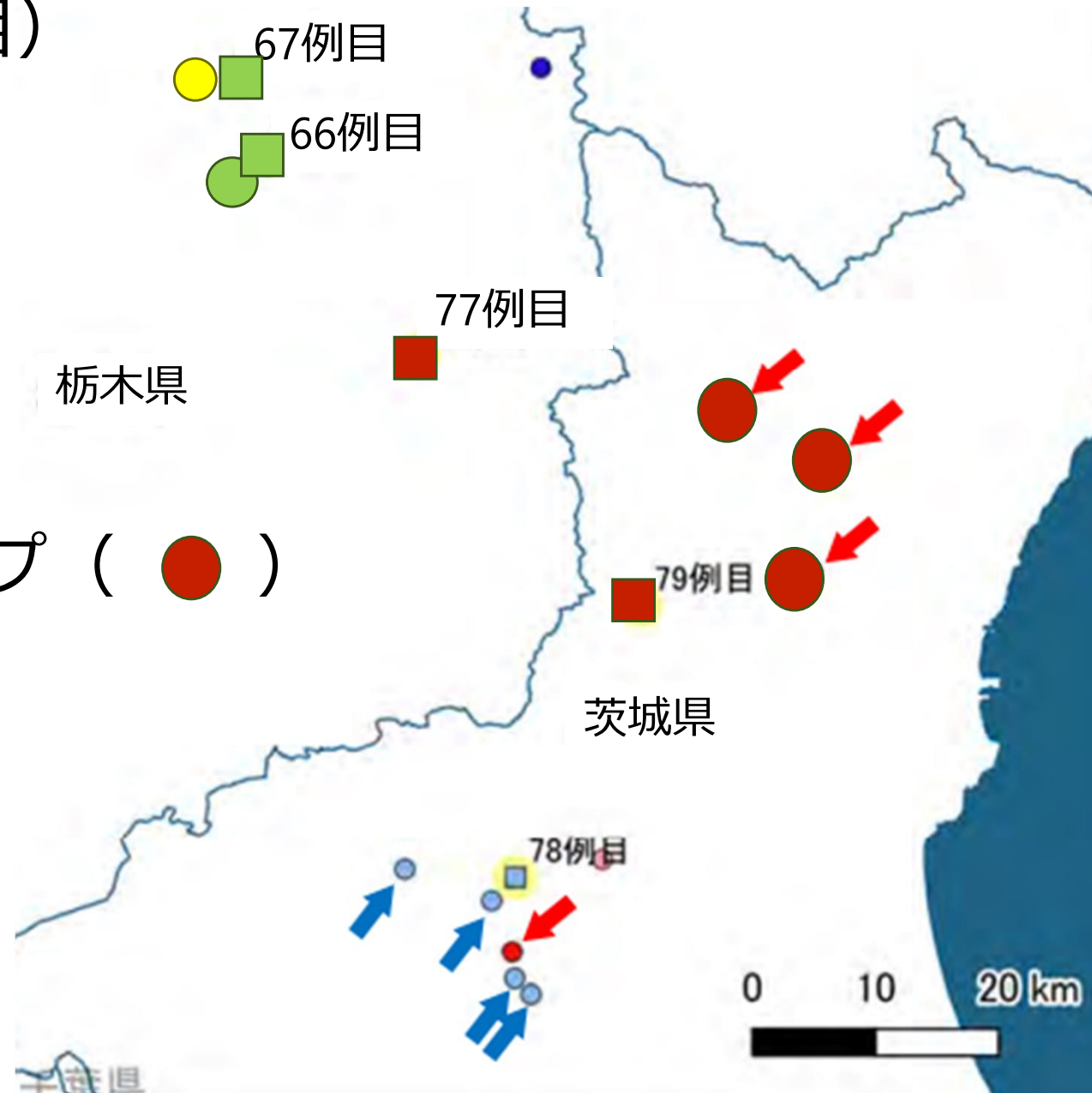
- 66例目と67例目は同じグループ（■）
- 周辺のイノシシ由来のウイルスも同じグループ（●）
- 別のグループのウイルスも存在（●）



ウイルスの遺伝子解析（県内3例目）

県内3例目（国内77例目）

- ・茨城県の発生農場と
同じグループ（ ■ ）
- ・周辺のイノシシ由来の
ウイルスも同じグループ（ ● ）



ウイルスの遺伝子解析（県内5例目）

県内5例目（国内90例目）

- 県内の発生農場由来ウイルスとも、野生イノシシ由来のウイルスとも別のグループと推定
- 野生イノシシの遺伝子解析を進める必要がある

